

漢字マスターへの道

教科書出版社名（ 光村図書 ）

○ 小学校（ 4 ）年 教科等（ 国語 ）

○ 「自ら学ぶ子どもの育成」に向けて、この単元で付けたい力

- ・自分の知りたい漢字について、本や辞典を使って、意味や成り立ちや読み方などを自主的に調べようとする力。
- ・漢字を「書く」「読む」だけの学習ではなく、その成り立ちを知ることによって、楽しみながら漢字学習に取り組む力。

○ 学校図書館活用のポイント

- ・漢字学習は、児童が特に苦手としている学習内容である。次々に学習する新出漢字を完璧に覚えることはとても難しい。漢字辞典の使い方を学習する前に、少しでも抵抗なく漢字学習に取り組めるように、漢字を絵で表す学習を行った。
- ・活動の最後には、漢字辞典以外にも、漢字について書かれた本がたくさんあることを知ってもらうために、何冊か本の紹介をした。紹介した本は、学年の本棚に入れておき、児童がいつでも見られるようにした。

○ 学習の展開（全2時間）

- | | |
|-----|--|
| 第1次 | <p>漢字の成り立ちについて考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漢字辞典を使って、漢字の意味や成り立ちを調べる。 ・調べた成り立ちから漢字を絵で表す。 ・漢字について書かれた本を読む。 |
|-----|--|

【取組みを終えて】

○ 学校図書館を活用した学習における成果と課題

① 成果	<ul style="list-style-type: none">・これまで、図書室に行っても漢字の本を読む児童はほとんどいなかったが、本単元の学習が終わると、多くの児童が「この本読んでみよう」と漢字の本を読む姿が見られた。・漢字の成り立ちについて、それぞれが予想する学習では、その漢字の読み方などから考える児童も多く、漢字辞典を活用している姿も多く見られた。調べたことをもとに、漢字を絵で表すという活動を取り入れたので、「絵を描くため」という目的意識をもって調べることができた。
② 課題	<ul style="list-style-type: none">・漢字の成り立ち、漢字クイズなど、いろいろな種類の漢字の本を用意したが、漢字が苦手な児童は、漢字自体に抵抗があり、漢字の本を読んでいる様子がほとんどなかった。・学習が終わってしばらくすると、漢字の本を読む児童の数は減少していった。定期的に、「おすすめ本」として置く場所を変えるなどして、児童の興味が持続できるような工夫をした方がよかった。
③ 児童の感想・ふりかえり	<ul style="list-style-type: none">・漢字の成り立ちを調べて絵で描いて楽しかった。少しだけ、漢字の勉強がおもしろいと思った。・漢字辞典を使ったら、漢字のことがよくわかるということを知った。

○ 学校図書館を活用した際に注意した点や学習の中で工夫した点について

<ul style="list-style-type: none">・自分で考える時間をとることで、児童の「答えを知りたい」「調べたい」という思いを引き出せるようにと考え、まず成り立ちを「予想する」活動を取り入れた。・最初から漢字の本を紹介しても、読もうとする児童は少ないと思ったので、少しでも「漢字の学習が楽しい」という思いを授業でもってから、単元の最後に他の漢字の本を紹介した。
--

名前

☆目指せ『漢字マスター』・漢字について、くわしくなろう！

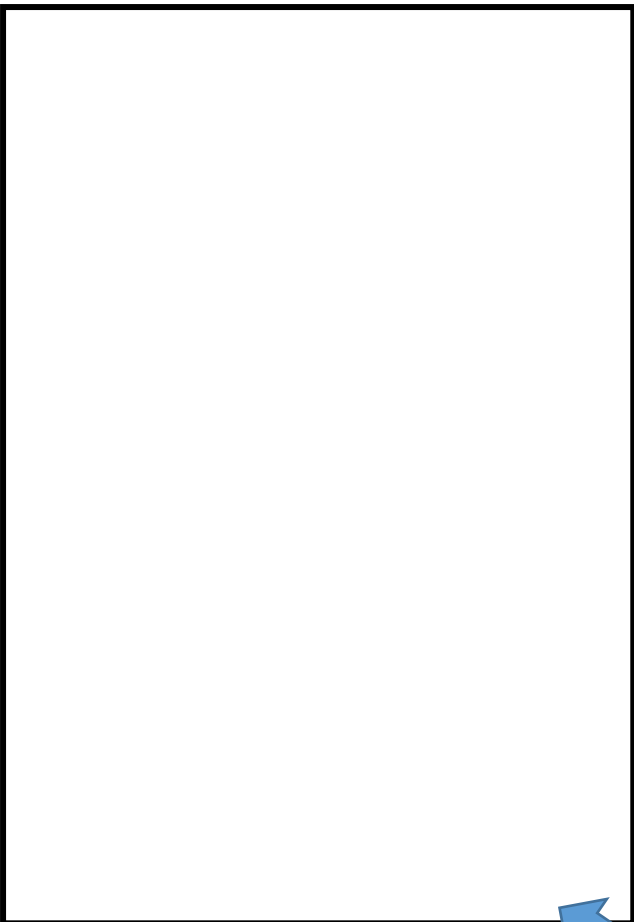
【調べる漢字】

	(音)	(その漢字を使った言葉)	
	(くさ)		

○漢字の成り立ち (その漢字がどうやってできたか) を知ろう！

(予想)	(調べたこと)
------	---------

(マスターへの道) 調べた漢字を絵で表そう！



「漢字の成り立ち」について調べたことを、絵に表すことができるといいね！！

(めまて)

【調べる漢字①】

(音)	(くん)

○漢字の成り立ちを知ろう！

(予想)

(調べたこと)



○調べた漢字を絵で表そう！

(ささひ)

)

【調べる漢字②】

(音)	(くん)

○漢字の成り立ちを知ろう！

(予想)

(調べたこと)



○調べた漢字を絵で表そう！